

『なに？ ボッチャって…？』 大半の人たちはこのように返答してきます。

私が「ボッチャ」と出会ったのは今から11年前のこと。当時入所していた施設の生活指導の先生からボッチャのビデオを見せてもらったのが最初になります。その1年後、静岡で初めてボッチャの大会（チーム戦）が開催され、先生に勧められて、仲間と共に出場しました。結果は第3位。それから今日までボッチャ競技に携わってきましたが、ボッチャを教えてくれた先生も、仲間も、自分自身もまさかここまで続けているとは思っていませんでした。

ボッチャの大会には脳性麻痺や筋ジストロフィーといった重度の障害をもつ選手が多く参加しています。身体の自由がきかず自分でボールが投げられなくても、ランプスという補助具を介助者によって操作してもらってボールを転がします。（ただし介助者は話やサインを送ったり、コートの中のボールも見ることは禁止されていて、選手の意思で行なわれます。）投げたボールが自分の考えた通りになった時の喜び、投球ごとに一喜一憂し、逆転に次ぐ逆転など勝つことを目的に真剣勝負を繰り広げています。



「ボッチャ」には他の障害者スポーツにはない魅力があります。

それは、障害の程度に係わらず、自分の意思を持って、誰もが対等に勝負に取り組むことのできるスポーツであるということ、また、障害者スポーツの世界最高峰の競技大会「パラリンピック」の正式種目であるということです。重度の障害を持っていても、世界を目指し、世界を舞台に戦うことができる、これが「ボッチャ」の一番の魅力であると私は考えています。

（ボッチャは競技としてだけでなく、その分かりやすい簡単なルールと、身体に大きな負担のかからない軽レクリエーションとして、障害の有無や年齢に関わらず、子どもから高齢者、健常者の人とが一緒になって楽しむことができるユニバーサルスポーツでもあります。）

私はこの10年間、日本各地で行われている国内大会（年5～6回程度）に出場してきました。2009年7月に行われた日本選手権と、その翌年1月に行われたジャパンカップという国内の主要2大会で初めて第3位の成績を収めることができました。

また、昨年（2010年）12月に中国・広州で開催された「広州2010アジアパラ競技大会」の遠征メンバーに初めて選出され、日本代表として出場してきました。初めての国際大会では、慣れない異国の環境の中で、アジアのレベルの高さを肌で感じながらも、これまでの経験と実力を全て出し切り、第5位の成績を収めることができました。

ボッチャをやり始めた頃、仲間内で『伊東から世界へ！』などと冗談交じりに話をしていたことを思い出しますが、これが夢への第一歩となり、この大会を機に『パラリンピックに出たい！』という気持ちが強くなりました。

パラリンピックに出場するためには、地域大会（アジア・オセアニア地域）、世界選手権大会、ワールドカップ大会に出場をし、そこで成績を収め、ランキングポイントを獲得しなければなりません。そのためにまずは、国内大会で成績を残し、日本代表に選出されるように日々練習を重ねています。

今年8月に北アイルランドで行われるワールドカップ大会は、来年ロンドンで開催されるパラリンピックの出場権をかけた最後の大会になります。この重要な大会に日本代表チームの一員に選ばれたことを誇りに思い、強い意識をもって、パラリンピックの出場権獲得を目指して、戦ってきたいと思っています。

しかし、海外遠征はもちろんのこと、

国内で行われる大会や合宿に参加するためには活動費や遠征費がかかります。諸外国の多くは国や企業からのバックアップで活動を行っているのに対し、日本ではまだまだ障害者スポーツに対する環境が整っていないのが現状です。世界を目指す以前に、金銭面や環境面の壁にぶつかっています。そこで勝手なお願いではありますが、パラリンピック出場を目指すために必要な資金面でのサポートを皆様から賜りたく、募金と後援会入会を心よりお願い申し上げます。



今でも「ボッチャ」を続けている理由…それは初めて出場した大会で予想外に好成績を収めてしまったことで『もっと勝ちたい』『もっと上手になりたい』という一競技者としての願望や闘争心が芽生えたことも要因の一つかもしれませんが、「ボッチャ」によって仲間と会うためのきっかけをつくり、そして新たな仲間との出会いを築くことのできる、そんな素晴らしいスポーツだからです。

「ボッチャ」はまだまだ知名度の低いマイナーなスポーツです。私は自分の活動を通して、より多くの方々に「ボッチャ」というスポーツがあると知ってもらいたいと考えています。競技者として更なる高みを目指すとともに、スポーツをやりたくてもできないと諦めている同じ障害を持つ方々に、自分にもできるスポーツがある、そしてスポーツができる喜びを感じてもらえるように、今後も取り組んでいきたいと思っています。

皆さんの御協力と御声援をよろしくお願いいたします。